第6回
越後つまり１００ｋｍ徒歩の旅

報　告　書

開催期間　２０１４年8月7日（木）～8月１１日（月）

越後つまり100Km徒歩の旅

綱　領

私には素晴らしい力があります。

はてしない可能性があります。

何事にもくじけず、弱音を吐かず

「出来る、出来る、必ず出来る」の精神で、

一歩一歩、前進すれば、必ずゴールに到達する

事を知っています。

私は、多くの人たちや自然の恵みをはじめ有形

無形、様々な支えがあって生かされていることへ

感謝します。

さらには、人生においての試練や苦労にも

感謝できる、強く、優しい人間です。

越後つまり100Km徒歩の旅

心得

積極的な姿勢

謙虚な心

整理整頓

時間管理

全員参加

一日一生

御　挨　拶

第６回越後つまり１００ｋｍ徒歩の旅
団　長　　澤　野　　崇

昨年と比べて気温が低く歩きやすい中、越後妻有交流館キナーレをスタートしました。毎年、事前準備をご家庭にお願いしているもののスタート直後は、参加された子ども、学生、社会人スタッフが安全に歩ききることが出来るのか心配になります。今年は、雨の中歩く機会があり、豪雨のため民家の軒先に身を寄せて雨が過ぎ去るのを待ったり、橋の上で風雨にさらされたりしました。晴れているときがいかに歩きやすいかを気づかせてくれた雨にも感謝です。

５月より毎週行ってきた学生スタッフ研修では、大切な命を守るために必要なスキルアップをして参りました。子どもたちの生きる力（知・徳・体のバランスのとれた力）を育成するにはどうしたらいいのか。まずは、主催者、学生スタッフが「生きる力」を身につけていなければなりません。自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、問題を解決する力。自らを律しつつ、他人とともに協調し思いやる心、感動する心、たくましく生きるための健康や体力を持ったスタッフを目指しました。また、限界への挑戦とは何なのか、子どもの成長とは何なのか、学生スタッフで共有し、各々が全力で向き合う熱い５日間となりました。「昨日の最高は今日の最低」日々成長していくことが大切だと伝える姿が目に焼き付いています。そんな学生スタッフの背中を見て、参加小学生は何かを感じてもらえたのではないでしょうか。一方、学生スタッフは貴重な体験をさせていただき「自立・自律」への一歩を刻んだことでしょう。

１００ｋｍ徒歩の旅は、ご家庭での事前準備無くして本番はありません。どんなスポーツでも練習無くして試合に出ることはありません。１００ｋｍ徒歩の旅は５日間だけでなく、事前のご家庭から始まっています。そして、１００ｋｍゴールして終わりでなく、ゴールテープを切ったその瞬間から次の目標（ステージ）へ向かってスタートです。それを学校・家庭・地域が連携して応援して参りましょう。

結びに、越後つまり１００ｋｍ徒歩の旅は、行政・医療・報道各機関、学校関係者、地元企業・団体、社会人スタッフ、十日町ＪＣメンバー、同じ志で１００ｋｍ徒歩の旅を行っている全国１００ｋｍ徒歩の旅の同志、そして、参加頂いた小学生、事前準備をしっかり行っていただきました保護者の皆様のご協力と支えがあって開催できました。この場をお借りして御礼申し上げます。これからも、地域教育の一つとして継続してまいりますので、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

団員のみんなへ

苦しくも楽しかった１００ｋｍの夏が終わり、すっかり秋になりましたが皆さん元気に過ごしていますか。

１００ｋｍ本番の時のように、時間を守って大切に使っていますか。大きな声で挨拶していますか。

みんなは、とても長い道のりでも、あきらめず一歩一歩足を前に出して進んでいけば、いつか必ずゴールに到着する事を経験しましたね。

辛そうにしている仲間に「頑張ろう！」と応援してくれましたね。団長は、毎年その姿に感動しています。今年応援してもらった人は、次は応援する側になりましょう。お互い様ですからね。

これから、辛い事があったときは、１００ｋｍ歩いた事を思いだして「出来きる、出来きる、必ず出来る」の気持ちで頑張って下さい。そして、苦しんでいる友達には進んで「頑張ろう！」と伝えましょう。

みんなには「**素晴らしい力**」があるのです！

「昨日の最高は今日の最低」１００ｋｍで出来たことは、みんなにとってはもう出来て当たり前です。**「あいさつ」「時間を守る」「整理整頓」**などは家でも、学校でも積極的に行いましょう！

最後に、参加させてくれた家族に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えたかな。まだなら、今からでも大きな声で伝えましょう。

参加者名簿

1班			
氏名	学校名	学年	回数
阿部(アベ) 京介(キョウスケ)	西小学校	6	3
太田(オオタ) 歩夢(アユム)	東小学校	6	1
樋口(ヒグチ) 謙信(ケンシン)	西小学校	5	2
本木(モトキ) 大智(ダイチ)	水沢小学校	5	1
高橋(タカハシ) 昴(スバル)	西小学校	4	1

2班			
氏名	学校名	学年	回数
堀(ホリ) 凌太朗(リョウタロウ)	西小学校	6	2
小川(オガワ) 滉太(コウタ)	東小学校	6	2
野沢(ノザワ) 洋太(ヨウタ)	橘小学校	5	1
山崎(ヤマザキ) 明(アキラ)	田沢小学校	5	1
中澤(ナカザワ) 仁成(ヒトナリ)	中津小学校	4	1

3班			
氏名	学校名	学年	回数
阿部(アベ) 彩乃(アヤノ)	東小学校	6	3
村山(ムラヤマ) ゆい	東小学校	6	3
庭野(ニワノ) 和音(カズネ)	東小学校	6	2

学生スタッフ名簿

担　当		氏名	学校	学年
団長補佐		渡邊裕貴	新潟県立看護大学	3年
1班	リーダー	細木友菜	北陸福祉保育専門学院	3年
	サブリーダー	大城巧世	上越教育大学	2年
2班	リーダー	小林美奈子	新潟県立看護大学	3年
	サブリーダー	池原　円	上越教育大学	2年
3班	リーダー	佐藤里奈	北陸福祉保育専門学院	3年
	サブリーダー	尾身綾香	上越教育大学	2年
セーフティ		高橋美春	新潟県立看護大学	3年
		萩原麻弓	上越教育大学	4年
		森田真衣	上越教育大学	2年
広報記録		花岡和貴	上越教育大学	4年
		後藤真実	上越教育大学	4年

参加者感想文

参加者 1 班　名前 阿部京介

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

今年は3年目の100徒歩でした。昨年は3日目に熱中症になり、リタイアしました。今年はリベンジでした。
歩いているときは足がとっても痛かったです。
マッサージが気持ちよかったです。ゴールについてのプールは楽しく、シンクロなどをして鼻に水が入って大変になりました。ゆなのぼうしが気持ちよくてうばって遊んだりしました。そして、りょうたろうが途中リタイアになり昨年の自分を見ているように感じました。
最後は、りょうたろうも来て、リベンジを達成できました。
今年は、らくにあるくことができ、もうちょっと歩きたいと、終って思いました。来年は阿部七海がスタッフとして3年間行くと思います。うちの姉がおせわになります。

参加者感想文

参加者 1 班　名前 太田歩夢

■　１００km徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

ぼくは、最初で最後の100km徒歩で歩けるか心配でした。だけど、学生スタッフがやさしく声をかけてくれたり接してくれたのでうれしかったです。
初日は足の痛みや班のみんなとあまりしゃべることができませんでした。だけど3日目など、なかばになるとだんだん慣れてきて、班以外の人ともしゃべれるようになりました。そして、最終日は、他の小学校の人とも仲良くハイタッチをしてとてもうれしかったです。来年からは、出られないけど学生スタッフとしても出てみたいと思いました。
〈学生スタッフへ〉
ぼくを4泊5日間声をかけてくれたり接してくれたのでとても楽しい100km徒歩でした。
本当にありがとうございました。

参加者感想文

参加者 1 班　名前 松浦昭信

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

ぼくは今回で2回目の参加でした。ぼくがよかったと思ったことは前より出たことです。今年でぼくは200km完歩しました。来年も行って300km完歩したいです。今年みたいにすずしくなるとはかぎらないので体力をつけて来年の参加にむけてがんばりたいです。

―めざせ300km完歩―

参加者感想文

参加者 1 班　名前 森大智

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

ぼくが、100km徒歩で歩いていたとき次のトイレと休けい所のことを考えていました。
そしてその日の、ゴールについてねるといつもより早くぐっすりねることができました。
そして100km徒歩で一番きつくてたいへんだったのは3日目でした。登りのときは坂が急でとてもたいへんでした。登りよりは、楽だと思っていた下りは、いきなりきゅうなうえに木々が多くて光がなくしけていたのでとてもすべりやすくそのうえガードレールもないだんがいせっぺきのところでとてもこわかったです。
そしてやっとゴールについて家に帰えった後少しぶなことに5日間も家にいなかったとは思えないくらいフルこのあいだまでいたようなかんじがしました。

参加者感想文

参加者　1班　名前　高橋昴

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

ぼくがひゃくと歩に出ようと思ったわけは、友だちがでていておもしろそうと思ったからです。ふだんできないことをやってみたかったからでました。

おもしろかったことは、他の学校にときたり、プールに入いったことです。レクリエーションでは、学校でやらない事をできて楽しかったです。

つらかった事は、雨の日にポンチョを着ての坂道です。だけど、声を出してがんばりました。最後のたいらな道のほが長く感じました。

ひゃくとほに出て思ったことは、友だちがいたから声も出せたし、よるもそんなにこわくありませんでした。来年もさ来年もさんかして300kmめざしたいです。

参加者感想文

参加者　2 班　名前 [illegible]

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

ぼくは、1日目と2日目の朝と5日目の午後にしか熱が出てしまって歩けませんでした。ですが、ちょっとしか話すことしかなかったけど班の人ととても仲良くなれてよかったです。たった一回だけみんなと入ったプールも楽しかったし今となっては、大切な思い出です。とてもくやしかったけど6年生最後の年なので残念です。

参加者感想文

参加者 2 班　名前 小川 滉太

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

ぼくは、100km徒歩の旅は2回目でした。この旅を通して思った事は、こつこつがんばることの大切さです。1歩1歩こつこつがんばって歩く100km徒歩の旅は、人生によく似ています。人生、いきなり1日がんばって急に夢が叶うものではありません。毎日一つ一つ努力をしていって、やっと叶うようなものです。100km徒歩の旅も、1歩1歩こつこつ歩きやっとゴールできます。だからぼくはこの旅で、こつこつがんばって何かを成しとげるすばらしさ、大切さを、改めて知ることができました。来年には中学生になり、勉強もむずかしくなります。そんな時こそ、この旅の出来事を思いだして、こつこつがんばっていきます。

参加者感想文

参加者 2 班　名前 野沢洋太

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

ぼくは、今回初めて100Km徒歩の旅に出ました。そしてがんばった結果、100Km完歩することができました。その100Km歩いている時につらかったことは、坂道を、上ぼったり、下ったりするのがつらかったです。どっちかと言えば下りの方がつらかった感じがします。次に、苦しかったことは、みんながあまり声をだしていないときにはぼくの声もだんだん小さくなったりすることがありました。そして1番うれしかったことはぼくの声が枯れていた時や、大きい声がでなかったときは、同じぼりょのみんながはげましの言葉をくれてがんばれました。最後にぼくたちのぼりょのリーダーをやってくれたなことサブリーダーをやってくれたまどにお礼を言います。ぼくたちが無事に完歩できたのは、なことまどのおかげです。本当にありがとうございました！！

参加者感想文

参加者　2班　名前 山崎 明

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

ぼくが100km徒歩の旅をやろうと思ったわけは、100km歩きたかったからだし、去年歩いている人をみて自分もやってみたいと思ったからです。

ぼくが100km歩いてみて分かったことが2つあります。

1つ目は100kmはとても長いということです。ぼくはと中でくつずれになったり足がいたくなったりしました。班の中にはシップをはるくらい痛くなった人もいました。だから100kmはとても長いということがわかりました。

2つ目は、みんなで協力すればゴールできるということです。例えば背中をおしてあげたりがんばれと声をかけあったりしました。これをしたおかげでみんなでゴールできました。そして100km歩いたことでみんなと仲よくなれて、大事な仲間になりました。これは一人ではできないチャレンジでいろんな人のささえがあってできたチャレンジだと思いました。いい思い出になったので来年もやりたいです。

参加者感想文

参加者 2 班　名前 中澤 仁成

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

ぼくは、100km徒歩の旅で達成したいことが3つありました。

一つ目は、友達を作ることでした。最初は、自分から話せなくて不安だったけど、相手から声をかけてきてくれました。それから、仲がよくなり、たくさんの友達が作れました。

二つ目は、健康でいられることでした。風邪をひいたり、熱中症になったら、どうしようかと思ったけど、なんとかならずにすみました。

三つ目は、完歩することでした。体力的に自信があるか分からなかったけど、完歩できました。これは、みんなが、たすけてくれたからだと思いました。また来年も出たいです。

みなさん、ありがとうございました。

参加者感想文

参加者 3 班　名前 阿部彩乃

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

私は、今年300kmを完歩するために参加しました。もう6年生で最後なので思い出にしようとしました。3回目だというのに、まだいやな気持ちもありました。1日20kmちかく歩いたり、つらい事があるのがいやでした。でも、反対に楽しみな事もありました。みんなでご飯を食べたり、夜ねたりしてすごく楽しみでした。7日、出発式の時いよいよかーと思いました。久しぶりにチクサクコールをしたり、少し行って歩調コールをしたりしてドキドキしていました。一番つらい3日目。朝から気分が下がっていて登れるか心配でした。でも歩調コールをしていくうちにマウンテンパークの頂上に着けたのでとてもたっせい感がありました。最後の5日目。もう終わりかーと思い、スタートとはちがってとてもさびしい気持ちになりました。ゴールする時、はりきって最後の一歩までがんばりました。すると、なみだが出てきて自分でもびっくりしました。私は自分が300km完歩できるなんて思ってなかったのでうれしいです。たくさんの人にお世話になりました。スタッフとして帰ってきたいです。

参加者感想文

参加者 3 班　名前 村山ゆい

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

私は、100km徒歩に出るのは3回目で、300kmを完歩できるようにがんばっていました。1日目は、17km歩きました。私が1日目でとくにたのしみにしていたことは、雪がたくさんあるところです。でも、雨がふってあまりあつくなかったです。あと、歩調コールをがんばりました。足もいたくなって、歩くのが大変でした。2日目は、ひまわり広場に行きました。雨がふった中で歩きました。でも、歩調コールでがんばりました。3日目は、今年で一番長い26.5kmを歩きました。マウンテンパークまで行って、展望台にものぼりました。その日は、雨がふる予定だったけど、雨にあたらないですみました。その日の夜のレクリレーションが楽しかったです。4日目は、ナカゴングリーンパークに行きました。3日目よりらくと思っていたけど、大変でした。5日目は、最終日で19.5km歩きました。班のみんなと歩くのがさい後なので、がんばって歩調コールの声をだしました。さい後の休けいでみんなで歩調コールをすることになりました。ゴールして、私は、目標にしていた、300km完歩できましたうれしかったです。

参加者感想文

参加者 3 班　名前 庭野 和音

■　１００ｋｍ徒歩の旅を通して感じた事、考えた事を事由に書いてみよう！

この旅を通して思った事は、今年は、参加者が少しすくなかったけど、歩調コールの時にみんなの声が聞きやすかったと思いました。　そして、うれしかったことは、2班のリーダーのりっぴは、歩調コールの時に、「もっと出るよ！がんばれ！」と言ってくれました。サブリーダーのおみかも歩調コールの時に、うしろを見て、OKサインをしてくれました。2人がそうやってくれたので、がんばろうと思いました。うれしかったです。

ゴールをしてから、解団式の時のみんなで歌った「遥かなる旅」をみんなと笑顔で歌えたのでよかったです。

今年は、少しさかがきつかったけど、「100km徒歩の旅」とても楽しかった思い出になりました。

保護者感想文

保護者氏名　阿部友美

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

昨年のリタイヤもあり心配がいっぱいでしたが
親もめざせ!! 今年こそは完歩を望んでいました

本人もリベンジという目標でしたので応援しようと思いました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

暑いと思っていた100徒歩が今年は台風!!
寒いかな 大丈夫かな といつもと違う心配がいっぱいでした。

でも暑くなければ今年は行けるかも… なんていう
期待もありました

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

まず ヤセた!? 間食もダラダラ生活もない
5日間 京介にとってはダイエットになったのでは…。

早寝早起きは完ペキ!! です

あとは 後々 大きく変った京介を探していきたいと思います。

3年間 ありがとうございました
来年からわが家の夏のイベントが1つなくなってしまうので
すごく淋しいですが 長く100徒歩が続く事を願っています
これからもどうぞよろしくお願いします。

保護者感想文

保護者氏名　太田里奈

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

私が勧めて参加することに決めたため、やっぱりやめたくないと急に言い出すのではないかと毎日心配でした。100kmという距離は想像もつかず、完歩できるだろうかという不安が常にありました。その不安も軽減できるよう、少しでも自信を持って望めるよう、毎朝一緒に歩きました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

まず台風が近づいており、天気が心配でした。まさか熱中症でなく裏に心配をするとは思いませんでした。
初参加ということもあり、スタート前、緊張した様子、馴染めない様子がいつもの歩夢らしくなく心配でした。ただスタートしてからは友達になるのは本人の性格からも大丈夫だろうとも思っていました。
無事に完歩して帰ってこれるよう、頑張れ頑張れと常に心で応援していました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

特別何か変わったということはありませんが、100km完歩したという話をしている時の表情には自信が見えます。もうもうしてます。
最初で最後の100徒歩でしたが、やれば出来るという自信を持つ良い機会となったようです。参加させて本当に良かったと思っています。
サポートして頂いた皆さんや、一緒に歩いた仲間達、
本当にありがとうございました。

保護者感想文

保護者氏名 樹山 恵美子

■ １００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

今回で2回目なので、あまり心配する事はなかったです。
体調管理に事前に気をつけていました。
また今回は本人の強い意志で参加したのでがんばれると思っていました。

■ １００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

開催期間中に母が亡くなり
葬儀に行っていた為
あまり心配する事はなかったです。

■ １００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

昨年同様
・自主的に勉強、手伝いなどをするようになった。
・気持ちが少し大人になった気がします。

保護者感想文

保護者氏名　本木太一

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

参加の申し込みをした時は、自分からプリントを持って来ることが、ほとんどない息子が、目を輝かせて、100km徒歩の申込み用紙を持って来ました。親として「やらせてあげたい」という気持ちだけでした。
説明会後は、しっかりとした教育理念を感じ、「行かせてみたい」と思うようになりました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

期間中は、ただ、ただ仲間に迷惑をかけていないか元気に歩いているか、心配でしたが、周りの仲間の助けを借りながら、完歩すると信じていました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

無事100kmを完歩して帰宅した大智は、いつもとあまり変らない大智でした。
下着を毎日かえるのを忘れていた、ズボラな息子、一人遊びが好きで、周りの事を気にしない息子に、残念なような、安心したような気持ちでしたが、日記のリーダーサブリーダーからの一言を読んで、率先して手を挙げ、声を出していた様子が書かれていて、親の見ていない所では、ちゃんとしていたのがなぁと大智の成長を感じました。

ゴールの時の晴々とした笑顔を見ることが、出来た日間、サポートして下さったスタッフの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

保護者感想文

保護者氏名　高橋 季代

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

人一倍身体の小さい息子が突然の100徒歩出る宣言!!
予期せぬ息子の宣言に、こんな小さな子が100kmも歩くことが出来るのか、不安でいっぱいになりましが、やる気になっている息子の姿を見て、応援しようと決めました。
参加するまでに少しでも歩く練習をしようと思い、毎朝1時間の散歩を日課にしました。散歩中の子どもとの会話はとても楽しいものでした。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

「心配」の一言です!! 5日間、空を見れば天気が気になり、外に出れば気温が気になり、時計を見ればどの辺りを歩いているか…。
そして夜になればきちんと眠れているのか。ずっと心配でした。
3日目位からは、心配ももちろんありましたが、元気にゴールをしてほしいという願うような気持ちでした。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

帰宅後、表面的に変わったところはありません。しかし、息子自身の中では確実に自信が芽生えたようです。
身体の小ささでくやしい思いをたくさんしているこの時期に100徒歩に出会い、100kmを完歩したことが自信をくれたようです。
5日間、初めてのことばかりでとても疲れていたようですが、今までに得たことのない達成感を感じたようです。息子の「来年も再来年も参加して300kmを完歩を目指す!!」宣言。親として、しっかり応援していきたいと思います。
最後になりましたが、学生ボランティアのみなさん、そしてスタッフのみなさん、子どもたちの安全を最優先に考え、子どもたちをささえて頂き本当にありがとうございました。

保護者感想文

保護者氏名　堀 亜希

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

2年目のチャレンジ!!
心も体も成長して、目指せ200km完歩!
親子ともにリラックスして出発を迎えました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

今頃どの辺を歩いているのかな？
友達ができたかな？　苦しいけれども
楽しく歩いている様子を想像していました…
が！　つづく

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

2日目突然鳴る携帯…まさかの団長から!!
『熱が出て下がらない』と…そして
『ご飯も全部食べて、元気はあるから心配ない』と。
無念の帰宅でしたが　もっと体調管理に気をつけて
いれば…と母は涙の大後悔でした。最終日のお昼
ご飯がとてもおいしかったと言ってました!!　ありがとうございます
大人になったらスタッフでリベンジしてくれると嬉しいです!

保護者感想文

保護者氏名　小川 明美

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

昨年、100kmを完歩し来年も絶対出るから！と言っていたので今年も迷いなく参加の申し込みをしました。
昨年は暑くてつらかったと言っていたので熱中症を心配していました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

暑さの事ばかり心配していましたが、はじまると雨と夜の暑さを心配しながら毎日過ごしていました。「今、おにいちゃんはどこを歩いているの？」と気にしている妹のみずきの様子を見ていつもけんかしてもやっぱり寂しいのかなと感じました。
こうたがいないと静かで寂しくて、いつも家のムードメーカーなんだなと気付きました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

すっかりもとの生活にもどっていますが、一緒にこの感想文を書いて、得たものの大きさを感じました。100kmを5日間で歩き続ける事から、努力する大切さを学び、中学生でもコツコツ努力してがんばっていきます。と気合いの入った文章でした。この文章を見て、又、成長したなとうれしく思います。
最後に団長をはじめ、学生スタッフ、社会人スタッフの皆様本当にありがとうございました。この現代社会、5日間子供を預かるという事はなかなかできる事ではないと思います。でも、このすばらしい体験を1人でも多くの子供が参加して味わってほしいので是非続けて下さい！

保護者感想文

保護者氏名　野沢美由紀

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

兄も5、6年生の時に参加したので、洋太が「オレも参加するよ」と言ったことから嬉しかったです。歩くことが好きな子なので楽しみにしている様子がうかがえました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

朝起きるのが苦手なので、それが心配でした。それと天気予報で雨続きで台風もきていたため、途中で事業が中止にならないかも心配でした。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

とても自信がもてたようで、気もちが大きくなったような気がしています。本当に良い経験をしてきてくれたと思ってます。

保護者感想文

保護者氏名　山崎 晶子

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

息子が「やってみたい！」と言うので、軽い気持ちで申し込みましたが、説明会で話を聞くうちに「うちの子、大丈夫かしら…」と心配になりました。反面、"かわいい子には旅をさせよ"という言葉のように、うちではできない経験をさせたいという思いも強くなりました。なんとか無事に100km完歩できるよう、親としてできることをやってあげようと思いました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

毎日、天気予報を見ては、「暑いかな？」「どしゃぶりかな？」「くつはぬれてないかな？」「夜はちゃんと寝ているかな？」など心配しどおしでした。2日目、はがきが届き元気にやっているようだったので安心しました。自宅の前を２回通る行程だったので、（帰ってきたくならないよう）あえて家に誰もいないようにしたり、窓にメッセージを貼ったりして、会わないよう我慢しました。本人よりも私の方が子離れできていないな…と思いました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

1年生の弟がゴールした兄を見て、「兄ちゃん顔、変わったよね。お兄さんぽくなった。」と言ったように、一回りたくましくなったように思います。100徒歩での出来事については、頭の中が整理されないのか、こちらから聞かないと多くは語ってくれませんが、チームのメンバーが忘れられないこと、みんなにまた会いたい、来年も行きたいとぽそっと独り言のように言います。今までに経験しなかった心の交流ができたのかなと思います。それから、知らない人たちの中でも仲間になれた、いい関係がつくれたという自信がついたのか、以前よりもサバサバとして、人とのかかわりでイジイジしなくなったようにも思います。また自分から何かしよう、やってみようとすることも多くなりました。こんなすばらしい経験をさせてくださったスタッフの皆様に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

保護者感想文

保護者氏名　中澤　明子

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

毎年、夏になると家の近くで見かける三度笠の隊列に、今年は我が子も入れていただけるということで、ワクワクしていました。
仲間作りや体調、天候など、少しは心配しましたが、自力で乗り越え、自信につなげてほしいと願っていました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

天気だけが気になって仕方ありませんでした。出来ることなら、まぶしい太陽の下、ひまわり畑やマウンテンパークからの眺めを堪能してほしいと思っていましたが、雨の中を何十キロも歩くということもまた、貴重な体験として、心に残るのだろうと、心配しつつも自分に言い聞かせました。よく食べ、よく眠り、とにかく歩ききってほしい、苦楽を共にした仲間と、元気にゴールしてほしいと願っていました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

5日間も家を離れたのは初めてのことだったので、帰宅すると、本人は、家族のみならず、冷蔵庫にまで「なつかしい！」と声を上げていました。
いつもケンカばかりの弟にも、福まきで拾ったお菓子や5円玉を「おみやげ」と言って渡し、二人で楽しそうにしていました。お互いの大切さがわかったようです。解団式で歌ってくれた「遥かなる旅」が大好きで、事ある毎に口ずさんでいます。すでに、来年のひゃく徒歩に心が向かっており、来年の装備の話をしています。
2014年の夏のひゃく徒歩は、彼の大切な宝物になり、大きな自信になったと、はっきり見てとれます。何事においても受け身的な事が多い子でしたが、帰宅後は、心なしか自発的な言動が増えた気がしています。
本当に良い体験をしてきたんだなぁと感じます。何から何まで大変お世話になりました団長様始めスタッフの皆様に心から感謝申し上げます。

保護者感想文

保護者氏名　阿部純子（彩乃）

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

本人は余裕の感じでした。親としてはやはり3回目とはいえ、毎年と同じ位心配でした。5日間の中で苦しい時間があると思うので、その時に弱音をはいてしまったり、逃げてしまったりしないか心配でした。ただ、本人を見てる限り楽しそうにたのしみにしている様子だったので大丈夫かなと思いました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

300kmを歩くという目標があったので、途中でリタイヤするという事はまずないなというの確信的な気持ちはありました。
気温も下がり熱中症の心配はなさそうでしたので安心してました。
日程表と時計を何度も見てました。1日1日が過ぎるごとに、
安堵すると同時にもうあと終わる、3年目が終わる、今年で最後だなという寂しい気持ちもありました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

本人の感想にもあったように300km完歩をする目標が達成できたので、とても喜んでました。ただ、やはりもう終わりなので寂しさの方が強かったようです。気が抜けたような感じでした。
次はボランティア・スタッフとして参加したいという楽しみができたので、よかったと思います。

無事に帰ってこれたこと、うれしく思ってます。スタッフの皆様方には大変感謝しています。小学生の今の時期にしか経験できない事をさせていただきました。一生の思い出になると思います。
ありがとうございました。

保護者感想文

保護者氏名　河山かおり

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

今年で3年目。300Kmへの挑戦でもあり、応援の
気持ちで いっぱいでした。
中学なら くじけず弱音を吐かず 歩ききると思っていました。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

ここ2年は暑くて熱中症が心配でした。
しかし今年は雨の予報。雨の中、長い距離
歩いたことがなかったので心配しました。
雨に降られその中で歩いていたので体調面が心配でした。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

今年の参加だけをみてではなく3年間通して
成長を感じました。

3年間で300km歩ききり自信が持てたと感じました。

保護者感想文

保護者氏名　庭野 一美

■　１００ｋｍ徒歩の旅に参加する前はどの様な気持ちでしたか？

和音にとって100Km徒歩の旅は2年ぶりの参加でしたので　前に一度歩いているから大丈夫だろうという気持ちと、一年間があいたので大丈夫かなぁ～、ちゃんと歩けるかなぁ～という気持ちと半分半分でした。
また　ちょうど台風もきていたので　それも心配でした。

■　１００ｋｍ徒歩の旅開催期間中はどの様な気持ちでしたか？

100Km徒歩の旅が始まる前は気温が38℃や39℃ととても暑かったので　長そでの着がえをあまり持たせなかったら夜、とっても涼しく　寒くないかと心配しました。　また今年は雨の日が多かったり、風がすごかったりしたので無事にみんなが完歩できるかと心配でした。　一度仕事場にケイタイを持って行くのを忘れ　あわてて昼休みに家に取りに行きました…。

■　１００ｋｍ徒歩の旅から帰宅後は何か変わりましたか？

「雨にもまけず　風にもまけず…」の今年の100Km徒歩の旅でした。和音も今年はきつかったと言っていましたが無事に完歩できて　とてもうれしく思います。
どれだけ大人になって帰ってきたかなと思ったのですが帰ったばかりの時は　以前より甘えんぼうになったような感じでした。　ゴール手前からすでに涙目になってましたし…。
でも　この経験はいつか自分の自信につながっていくと思いますし　本当に参加させていただきよかったと思います。
200Km完歩できたのはスタッフの皆さんやいっしょに歩いてくれたなかま達のおかげだと思います。　本当にありがとうございました。

学生スタッフ感想文

学校名　新潟県立看護大学（3 年）　　学生スタッフ氏名　渡邊裕貴（なべ）

今年の学生スタッフは 12 名の内 8 名が初参加であり、団長補佐である私の主な役割としては、今までの 100km 徒歩の経験を生かして彼らをサポートすることであった。1 日目のスタッフミーティングの時に団長から各学生スタッフに対して、「子どもたちのどんな力を成長させたいのか」と問いが投げかけられた。その問いに対し各学生スタッフは、「全力で取り組むことを継続する力」「みんなで協力する力」「積極性」「助け合う力」「自分らしさを出す力」「感謝する心」「自分から気がつける力」「自分で考えて行動する力」等と各々が答えを出した。どれもが異なる力であると同時に生きる力に繋がる力であり、それぞれの力を伸ばすことが出来れば子どもたちは大きく成長するだろうと思い、ゴールする頃には子どもたちにどのような変化が起こっているのかと楽しみに感じていた。

例年に比べて今年は気温が低く、雨も降った。そのせいか、体調を崩してしまった者もおり、今後はこまめに服を着替えるなどして対策する必要があると痛感させられた。その反面、熱中症をあまり気にせずに、もっと声を出すよう子どもたちを追い込むことが出来た。毎日、それぞれの班のリーダー、サブリーダーが中心となって班ごとに 1 日を振り返り、明日の目標を決めていた。その成果は大きく、子どもたちは日が経つごとに歩調コールの声の大きさが変わり、積極的に手を挙げる姿や友達を助け合う姿、時間をみて行動する姿が多く見られるようになった。解団式で子どもたちが賞状を受け取るときの姿はとても逞しくて涙が溢れてしまった。100km 徒歩という成長する機会を全員が逃すことなく、手に掴むことが出来たと自信を持って言うことができる。私は、成長する（限界を超える）ためには物事に全力で取り組み続ける必要があると考えている。100km 徒歩で全力を出せることは何かと考えた時に、歩く体力は十分にあるから「歩くこと」ではなくて「声を出すこと」であると思う。子どもたちにとって 5 日間ずっと声を出し続けることは苦しかったと思うが、全力で 5 日間声を出し続けたこの経験は勉強やスポーツといったあらゆる場で活かすことができる。子どもたちには仲間と歩いたこの 5 日間を忘れずに、声を出して歩き抜いた自分に自信を持って、今後の生活を送って欲しい。また自分 1 人ではどうすることもできず困った時には、100km 徒歩と同じようにいつだって周りには支えてくれる人が居るから頼って欲しい。

最後に、私たちを支えてくれた社会人スタッフ、実行委員会、保護者、地域の皆さん、そして参加を決意した学生スタッフと子どもたちに感謝をしたい。ありがとうございました。

学生スタッフ感想文

学校名　北陸福祉保育専門学院（３年）　　学生スタッフ氏名　　細木友菜（ゆな）

第６回越後つまり１００㎞徒歩の旅に初めて参加して、今感じていること･･･それは、人生は「出会い」だということである。そして「出会い」はいつも素晴らしく・貴重だということだ。たまたま何かの巡り合わせで出会った場所・時間・体験・気持ち・人・食べ物･･･これこそ「出会い」だと感じる。なぜなら、私がこの素晴らしい経験を得た１００徒歩参加に至った経緯も「出会い」からだった。旅好きな私に、同じく旅好きな友人が、小学生と１００㎞歩くイベント（？）があると教えてくれた。私はすぐに面白そうだと飛びついた。正直この時は、ただ小学生と歩くだけのものだと軽い気持ちでいた。これから衝撃的な「出会い」があるとは考えてもいなかった。研修に１回２回３回･･･と参加する中で、軽い気持ちのお遊びではないことが伝わってきた。誰もが真剣で、全力なのだと･･･。そして１００徒歩に関わるスタッフは全力を尽くすことを恥ずかしがらないのだと･･･。それから、私は、どんどんどんどん１００徒歩の魅力に引き寄せられていった。そんな仲間に「出会えた」ことにとても感謝している。

また、今回１００徒歩では、１班リーダーを務めた。私は、リーダーのようなものを避けてきた人間だった。何度かチャレンジしたことがあった。しかし、リーダーという役をもらった途端に「リーダーの自分がしっかりしなければ、どうにかしなければ」とばかり考えてしまい、班のメンバーが見えなくなり、一人だけ一生懸命にやって空回りすることが多々あった。そのため、私にとって大役であるリーダーを任されたとき、自信がなかった。今、自分が成長するために必要な乗り越えるべき壁なのではないかと「班のメンバーを成長させるには」ということを常に考え、試行錯誤しながら努めた。やはり難しく考えすぎていた部分があった。そのため、子どもの弱点ばかり見て、他の班と比べて、どうにかしなくてはと焦っていた。しかし、４泊５日の反省会などでスタッフから意見交換したり、話を聞いたりすると「弱点を伸ばすのは専門家でも難しいことで、子どもの強みを伸ばしてあげよう」ということをもう１度改めて思い出させてもらった。固い頭をしていた私には逆転の発想が出来ていなかったのだ。この経験からみんなで情報共有し、みんなで解決すること大切さを改めて学んだ。

私に素晴らしい経験や人などとの「出会い」をもたらしてくれた１００徒歩の魅力を、もっともっとたくさんの人に知ってもらいたい。そして、一人でも多くの人に１００徒歩に「出会い」様々な非日常的な「出会い」を体験・感じてほしい。

学生スタッフ感想文

学校名　上越教育大学（２年）　　学生スタッフ氏名　大城巧世（おきなん）

今回第六回越後つまり１００キロ徒歩の旅に参加させていただき本当にありがとうございました。２ヶ月前から事前にスタッフ同士で集まってアイスブレイクすることから始まり、最終的には自分の限界をともに知り合える仲間と巡り会えることができました。事前準備が足りなくて戸惑う経験をしたり、リーダーシップに求められる力とは何かを考えたり、毎回集まる事に成長できた気がします。

本番になると、子供たちから積極的にコミュニケーションが取れていて、指示などもちゃんと聞いてくれました。私は１班のサブリーダーをさせていただきましたが、１日目の１班の課題である（自ら積極的に手をあげる）を最終日である５日目ではみんなが目標を達成できていたと思います。

残念ながら私は２日目の朝に熱をだしてしまい、２日目、３日目、４日目と子ども達との交流をすることがあまりできませんでした。みんなが一生懸命歩いてたり、夜にレクレーションなどで楽しんでいる時、私は熱が引くまで眠り続けるという悔しい思いもしましたが、その一方で知り得たこともいくつかありました。例えば、子ども達が私を見かけると、「熱大丈夫？いつ一緒にあるけるの？」と心配の声をもらいました。当たり前のことかもしれませんが、子ども達のやさしさをここでも知ることができました。

４日目には裏方ということで、社会人スッタフの皆さんと一緒に活動しました。社会人スタッフの皆さんと子ども達の水かけポイントまで先回りしたり、昼食の時に弁当を運搬、各休憩所の設営、その後の片付けなど１日目では気がつかなかった私だけの経験を得ることができました。この時、１００徒歩は周りの人々に支えられていることを改めて実感させていただきました。

今回の学生スタッフは正直１番きつかったけれど、１番楽しく１番成長できたものだったと思います。これからもこの経験で得たものを人生の糧にしていきたいと思います。ありがとうございました。

学生スタッフ感想文

学校名　新潟県立看護大学（３年）　　学生スタッフ氏名　小林美奈子（なこ）

　私がこの越後つまり 100km 徒歩の旅の参加を決めた理由は 2 つあります。1 つは私の将来の夢である「養護教諭」になるためにとても良い経験ができるからだと思ったからです。2 つ目は「今しかできないことを今やる」という強い思いに駆られ、学生である程度時間に余裕のある今だからこそ 4 泊 5 日という長い時間を 1 つのことにかけてみようと思ったからです。

　実際に研修が始まってみると、とても濃く社会に出てからも役に立てることができるような内容の研修で参加を決めて本当に良かったと思いました。100km 徒歩の旅の綱領や心得を初めて読んだとき、自分もこの綱領にあるような精神で、心得をもつ大人になりたいと思いました。研修で読むたびに、この心得を守れているのか、綱領にあるような精神の持ち主になれているのかと自分に問いました。また、大切なお子さんたちを預かるのですから、いかに安全に旅が送れるのか、という点でもスタッフ間で話し合いを重ねました。リスクマネジメントや去年から参加しているスタッフの経験などの情報を共有する大切さも学びました。

　いざ始まってみると、みんな緊張した面持ちで自己紹介をしており 5 日間でどれだけ仲良くなれるか心配でした。しかしその心配は杞憂に終わりました。越後つまり 100km 徒歩の旅では一番の山場と呼ばれる 3 日目、きつい長い坂道を登っているとき、リーサブの頑張れ！もっと声でるよ！いいぞ！という応援の他に、子どもたちの中からもがんば！という声が出てきたのです。そして、声援を受けた子はさらに声が出るようになるのです。この時、私はとても感動しました。子どもの持つ「素晴らしい力」と「はてしない可能性」を体感した瞬間でした。この日を境にぐんと班の雰囲気は良くなり、絆が強まりました。休憩時間にはにこにこと話をしたり、レクリエーションでは真剣に作戦を練ったり、時計を見て声を掛け合ったりとどんどん成長していきました。最後には子ども同士だけではなく、リーサブにもがんばれ！と声をかけてくれるようになりました。

　私は「人を諦めない」ということを学びました。自分のことを諦めない、というのはよく言われることですが、この 100 徒歩を通して「人を諦めない」ことも大切だと思いました。誰にでも可能性があり、それを諦めない限り成長は続くと思います。諦めた瞬間、その人の成長は小さくなってしまうと思います。

　この越後つまり 100km 徒歩の旅に参加して本当に良かったと思います。ここで学んだことを忘れず、次へ生かしていきたいと思います。最高の夏をありがとうございました。

学生スタッフ感想文

学校名　上越教育大学（２年）　　学生スタッフ氏名　池原　円（まど）

　　１００㎞徒歩の旅で４泊５日を共に過ごした学生スタッフのみなさんそして一緒に歩き続けた子供のみんな、影で支えてくれた保護者の方社会人スタッフのみなさんにまず最初にありがとうと伝えたいです。この多くの方の支えがなかったら、完歩できなかったと思います。私は、今回このボランティアに初めて参加しました。最初、自分自身完歩できるか不安だったし、子供をうまくサポートできるのか心配でした。サブリーダーだったので旗を持って班の前を歩き、前から子供の様子を見て声をかけながら歩き続けました。２班の子供を担当したのですが、どの子も一生懸命で私が逆に元気をもらっていました。話すととても素直でやさしい男の子ばかり。初めて顔合わせをした子達なのにいつの間にか面白いことを言って笑い合ったり、名前を呼び合って「〇〇くん、頑張れ！」と励まし合っていました。その姿を見て、私はほっこりしました。４泊５日共にする内に絆も深まり、誰かが欠けてしまうと寂しさを感じるほどでした。中には風邪を引いて途中お家のほうに戻った男の子がいて、その子の分まで頑張るんだと他の子達が言っていました。その優しさが届いたのか最後の日に途中から少し歩くことができて私も班の子供たちもすごく嬉しくてゴールした時は達成感でいっぱいになりました。私は今回のボランティアで子供たちのすごさを感じました。小学４年から６年の子がいてその中で足の歩幅も違えば歩くペースも違う中で歩調コールで一生懸命声を出して最後まで歩き続けた姿勢に感動しました。また、自分のことで大変なはずなのに周りの子の気遣いをしている様子やお互いを応援している様子から、心のあたたかさを感じ素敵な場面に沢山遭遇しました。子供たちは意外なところでふと優しさをみせたり笑顔を見せたりその瞬間を身近で見ることができたのは本当に良かったです。この子たちがこの経験を生かしてこれからどのように成長していくのかすごく楽しみです。どんなに足が痛くても、雨がたくさん降ってきてもゴールに向かって歩き続けた４泊５日。一歩一歩の積み重ねが生むキセキ。このキセキを体で感じることで次に進む糧になっていく気がします。私はこの経験を通して、子供と一緒に何かをすることの大切さ、日頃当たり前に生活していることに感謝の気持ちをもつことなどいろいろな場面で学ばせていただきました。ご飯を食べれること、お風呂に入れること、笑えること、泣けること、このすべてに誰かの支えがあって成り立っていると思います。これからも謙虚な気持ちを忘れずこの１００㎞で出会った仲間とまた出会える日まで大学生活頑張ろうと思います。私にとっても忘れられない素敵な夏の思い出になりました。ありがとうございました。

学生スタッフ感想文

学校名　北陸福祉保育専門学院（３年）　　学生スタッフ氏名　佐藤里奈（りっぴ）

　私は、今回初めて１００徒歩に参加し、３班のリーダーをさせていただきました。初めの頃は、どうやっていったらいいのか戸惑い困ることもありましたが、事前研修や本番を通して４泊５日がどのように行われるのか分かっていきました。経験のある学生スタッフや同じ教育分野を学ぶスタッフと過ごしていく中で様々な意見や考えを知り刺激をもらいました。本番の期間も毎晩遅くまで相談し合い、スタッフ一人一人が子ども達のためにできることはないか真剣に考え協力をしていきました。その結果、１００㎞をゴールした後には、みんなで達成感や感動を味わうことができました。

　本番の５日間では、リーダーという立場に立ち、子どもたちの何を成長させたいか、何を得て帰ってほしいか、とても悩みました。毎日の反省会の中でサブリーダーとどういう方向に持っていくか話し合ったり、去年の班付きのスタッフに聞いたりしました。試行錯誤していく中でようやく方向性を見つけることができましたが、それが３日目の夜だったのでもう少し早く見つけ出すことが反省です。また、子どもたちと過ごしていく中で子どもたちから学ぶことや教えてもらうことがたくさんありました。女の子３人の班だったのですが、一人一人から感動をもらいました。声を出して自分の限界に挑む姿、自分の目標に向かっていく姿、きつい坂道こそ声を出していく姿、これらは今でも忘れることのない姿です。こちらが本気で向き合っていけば、子どももそれに応えようと挑戦するということが分かりました。また、その子を本気で成長させていくという想いを持って子どもと関わっていくことが大切だと改めて強く感じました。

　出逢いというものは素晴らしいと思います。参加した小学生・学生スタッフなどここで出逢えた仲間は一生忘れません。今回の１００徒歩で出逢った全ての方に感謝します。ここで得たことや感じた刺激を将来の小学校教諭になるという夢につなげて今後に活かしていきます。

　この夏の経験を忘れません。みなさん、本当にありがとうございました。

学生スタッフ感想文

学校名　上越教育大学（２年）　　学生スタッフ氏名　尾身綾香（おみか）

今回、私が１００キロ徒歩の旅の活動にスタッフとして参加しようと思った理由は、自分の出身地である十日町市で地域の小学生の成長をお手伝いできるから、ということであった。そして、小学生と関わることで私自身の将来の夢である小学校教員になるうえで必要となる、子供と接する力を高めることができたらいいな、と思い参加することに決めた。

学生スタッフは毎週研修があり、様々な場所における危機管理や、子供の目線になって考える、ということを学ぶことができてとても勉強になった。周囲にいる学生スタッフや大人の方々の意見などを聞いて、みなさんが常に参加してくれる小学生のことを第一に考えていてそのような姿勢を見て、私にはまだまだ子供の目線となって活動を考えていく力が足りていないということに気が付くことができた。

このような充実している研修を受けてきたのだが、本番当日は不安でいっぱいだった。私は体力に自信があるほうではないので、まず自分自身が１００キロ歩き切れるかが不安であったし、その自分がいっぱいいっぱいな中で小学生のことをフォローできるのかが不安であった。しかしいざ歩き始めると、一生懸命に歩く小学生を見て自然と元気が出てきた。今回でいえば「完歩する」ということになるが、何か目標に向かって頑張る姿は他人にもいい影響を与えてくれるのだと感じた。また坂道のような過酷な状況は大きな声でみんなで歩調コールをすると不思議とつらく感じなかった。もし１人であったら長く、つらい時間となっていただろう。仲間と励ましあうことの大切さを学ぶことができた。また、歩調コールを初めは大きな声でできなかった子が、最終日には励ましを受けて初日とは比べられないほどの声で歩調コールをしていて、人には限界というものはないのだな、ということを再確認できた。

このように小学生をみて学ぶことが多かったが、学生スタッフからもたくさんのことを学んだ。常に笑顔でいること、子供と本気で遊び本気で注意している姿、子供の少しの変化も逃さない注意力、子供との心の距離の縮め方など自分に足りていないことばかりであった。他校の人と活動することでたくさんの刺激をうけ自分の未熟さを知り、もっとたくさんの経験をつもう、という意欲につながった。

私自身は、他人に気を配るという意識をもつという点で成長できたと思う。つらい状況だからこそ、みんなを元気づけなくては、つらいからこそ笑顔で励まさなくては、というように考えられるようになった。自分を見つめなおす、いいきっかけとなった活動であった。参加してくれた小学生、学生スタッフ、そして支えてくださった大人の方々に感謝でいっぱいである。

学生スタッフ感想文

学校名　新潟県立看護大学（３年）　　学生スタッフ氏名　高橋美春（はる）

　また今年も越後つまり 100 ㎞徒歩の旅での素晴らしく熱い５日間が終わりました。私は去年の経験からの反省を今年に活かすために２年目として参加しました。そして 2014 年度の学生スタッフ集めから始まり毎週の研修、そして今年の５日間の旅と過ごす中で私は今年も様々な事を学びました。

　私はセーフティーを勤めました。セーフティーは班そして全体の安全を守ること、隊列から遅れた子を班に戻すことが役割です。セーフティーとして一つの班にとらわれず、すべての班にまんべんなく関われた事はとても楽しかったです。そして、セーフティーは、去年の私の反省を活かすためには最高のポジションでした。一人ひとりの観察を行い、班の一人ひとり、そして全体が成長するには何が必要なのか、どのような関わりが必要なのかという視点と班の方向性を大切にする視点を意識して過ごしました。その結果、各班の参加者やリーダー、サブリーダーの動きをみる事ができました。班のメンバーはそれぞれが持つ良い点とこれからまだまだ伸ばすことのできる点がありました。そしてその個性を持ったメンバーが作る各班は一緒に過ごす時間が長くなるにつれて、全く異なる色の班としてそれぞれのまとまりになって成長していきました。私は個を見る目と全体を見る目を学びました。そして 100 ㎞徒歩の旅は団長をはじめ参加者、学生スタッフ、社会人スタッフの方々、保護者の方々みんなの力がその年の 100 ㎞を作り上げていき、2 度と同じものにはならないのだと改めて感じました。

　ここからは参加者の１３人のみんなに向けて書きます。100 ㎞歩いた参加者のみんなには素晴らしい力があります。100 ㎞歩く事に挑戦しようとした勇気、歩いたこと、５日間いつもと違う環境で生活したことはすごいです。でもみんなができるようになったことはそれだけじゃありません。100 徒歩に参加する前と参加した後の自分を比べてみるとたくさん成長したことに気付くと思います。私が「まだできる、もっと声がでるよ、できるんだよ。」と声をかけるとみんなの声はどんどん大きくなりました。みんなの無限大の力を感じました。私はみんなから諦めないで強い気持ちを持って頑張ればできるようになる事を学びました。そして、みんなで励まし合うことで強くなれることも学びました。これからも難しい事や辛い事に出会います。そんな時は 100 徒歩の事を思い出してみましょう。きっと元気が出てできる気がしてくるでしょう。

　　最後に大切なお子様を預けて下さった保護者の皆様、社会人スタッフの皆さん、上村さん、団長、本当にありがとうございました。2014 年第 6 回越後つまり 100 ㎞徒歩の旅でこのような素晴らしい経験ができたことに感謝します。

学生スタッフ感想文

学校名　上越教育大学（４年）　　学生スタッフ氏名　萩原麻弓（おはぎ）

越後つまり 100 ㎞徒歩の旅に参加して

私は大学 3 年間で様々なボランティアに参加してきた。この 100 徒歩に参加したのも、他のボランティアと同じように子どもとたくさん関われることや貴重な体験ができると考えたために参加を決めた。しかし、実際に研修や本番に取り組むにあたり、今までの経験とはまた違う経験や発見ができた。

１つめは、仲間の存在の大きさだ。自分一人で 100 ㎞を歩ききるということはなかなかできないことである。しかし、100 ㎞徒歩の旅に参加することで、同じ目標に向かって頑張る仲間やそれを支えてくれるボランティアスタッフの存在が一人ではなかなか出来ないことを可能にしてくれるように感じた。大人の私でさえ一人で 100 ㎞歩くことはなかなか難しいことだが、1 日 1 日歩ききれたのは完歩に向かって着実に歩いていく子どもたちの姿を見る事が出来たことが糧となって歩ききることが出来た。それは、子どもたちも同じように感じていたのではないだろうか？自分一人ではなかなか挑戦できないことも友だちの声や姿に励まされて歩ききることが出来たのだと思う。歩くことは自分の意思がないと出来ないことである。人が足を動かしてくれるわけでもない。だけど、実際あるくときは隣や前、後ろを歩く仲間の存在がとっても心強く感じる。言葉では表せられない仲間の大切さ一人一人が感じたと思った。

２つめは、子どもたちの目標意識である。事前研修のときに子どもたちに 100 ㎞徒歩の旅の目標を聞いた。みんなしっかり答えていて驚かされた。この活動は、子どもたち自身の目的意識がとても強い活動だと感じる。完歩する事も立派な目標の一つであり、リピーターの子たちはそれにプラスしてみんなでやりきることや風景を見ながら完歩するなど具体的な目標を掲げやすい。また、その目標を互いに共有することでお互いの目標を支える存在にもなっていた。100 ㎞歩ききるという具体的な活動が子どもたちにこのような意識をもたせることが出来るのだと考える。目標をもつことで、やってやるというやる気もわいてきているようだった。また、学年が上がると自分一人の目標ではなく、みんなの事も踏まえた目標を掲げている子が多くいた。このような学年差を上手に活用した活動内容がとてもすてきだと感じた。

実際初めて 100 ㎞徒歩の旅に参加する子も、経験したことがある子も 1 日のスタートのときの顔とその日 1 日終えたときの顔では顔つきが凛々しくなっていたように感じた。子どもだけでなく、スタッフも同じだと考える。うまくいったことばかりではなかったけど、それも素敵な思い出になる。100 ㎞歩くということをみんなで挑戦することで様々な学びを得ることができた。

学生スタッフ感想文

学校名　上越教育大学（２年）　　学生スタッフ氏名　森田真衣（もりたま）

私は富山県の出身ですが富山県にも 100 ㎞徒歩の旅がありました。高校生になったとき、地元の 100 ㎞徒歩の旅のスタッフをやりたいと思いましたが部活などで忙しく、結局 3 年間できませんでした。上越の大学に来て十日町市にも 100 ㎞徒歩の旅があることを知りました。都合上５日間全てに出られず、けれども子どもの頃に参加した 100 ㎞徒歩の旅が忘れられず、団長に相談したところ、受け入れていただき、2 日だけですが、スタッフとして 100 ㎞徒歩の旅に参加させていただきました。

100 ㎞徒歩の旅のスタッフをやらせていただいて、子どものときに参加した 100 ㎞徒歩の旅の本当の目標の意味がやっと分かりました。子どもの頃、スタッフのお兄さんお姉さんは私たちにどんな力をつけてほしかったのか、私たちにどんな考えをもってほしかったのか、私たちにどんな行動を身につけてほしかったのか。それを知ったうえで今回スタッフとして参加し、当時を振り返り、なんだかとても嬉しい気持ちになりました。私が 100 ㎞徒歩の旅を通してつけることのできた力を次は子どもたちに伝えられたのではないかと。

小学生として参加させていただいたあの頃も、すてきな体験であり、すてきな思い出ですが、成長した今、再びこの 100 ㎞徒歩の旅に参加させていただいたことも、とても意味のある濃い時間でした。今回参加してくれたみなさんにもぜひとも味わってもらいたいものだと思います。

子どもの頃も感動しましたが、今回は第三者として外側から本気で頑張っているみなさんの姿を見たり、みなさんが思っていることや熱い思いを感じたりしてまた一味違った感動を味わうことができました。100 ㎞徒歩の旅に参加させていただいて、実際に自分が活動したから、これから何があってもやっていける気がしますし、みなさんの姿を見ても、頑張ればなんでもできるということが分かりました。 子どもたちも学生も社会人スタッフの方も、みんなが最後には本気になって取り組んだから、感動できたのだと思いますし、最後は、やりきった！という笑顔で輝いていたのだと思います。すてきなフィナーレでした。

２日間でしたが、参加できて本当によかったです。

支えてくださったみなさま、機会をくださった実行委員会さま、いっしょにやりきってくれた学生のみなさま、一緒に本気で取り組んだみんな、保護者のみなさま、本当にありがとうございました。

学生スタッフ感想文

学校名　上越教育大学（４年）　　学生スタッフ氏名　花岡　和貴（か～くん）

今年も暑い、熱い夏が終わりました。私にとっての 2 回目の 100km 徒歩の旅。今年は記録係として参加させていただきました。

「一瞬」をカメラでおさえることは本当に難しいことでした。子どもたちが大きな声で歩調コールをして歩いている姿、休憩中の楽しそうな姿、リーダーや仲間の話を真剣に受け止める姿。色々な姿が 5 日間にあったはず。カメラに捉えることができたのは、そのほんの一部分でしかありません。しかしその 1 枚 1 枚の写真を見返せば、あの 5 日間の思い出がよみがえってきます。

5 日間の中には様々なドラマがありました。「自分から」ということをリーダーが子どもたちに伝え、それを受け止めて動こうとする子どもたち。「今日の最高は明日の最低なんだよ。だから明日はもっと頑張れる」と応援し続けるリーダー。辛そうにしている仲間の背中を押して支え合っているたくましい姿。声が枯れても必死に声を出し、辛くても歯を食いしばって頑張り、一歩一歩進んでいくみんなの姿は今でも忘れることができません。感動がたくさん詰まった 5 日間はこのメンバーだからこそ作り上げることができたのだと心から思います。

また、100km 徒歩の旅に関わる人たちに私はたくさん支えていただきました。いつも元気で、笑顔で、でも歩く時には本当に真剣な姿を見せてくれた子どもたちからは私自身が元気や勇気をもらいました。ありがとう。一緒に頑張った学生スタッフのみんなは記録係のことを心配してくれて、自分たちも疲れているはずなのにいつも声をかけてくれました。ありがとう。社会人スタッフの皆さんにはご迷惑ばかりかけていたにも関わらず、優しく声をかけていただきました。ありがとうございました。私はこの 5 日間で色々な人たちが私のことを支えてくれているということも実感しました。私はみんなのことを支えられていたのだろうか…。そこがこれからの私の課題であると受け止めています。

この 100km 徒歩の旅での出来事はかけがえのない思い出であり、学ぶことの多い体験でした。本当にありがとうございました。100km 徒歩の旅の仲間との関わりの中でまた大きく成長することができました。来年度からは社会に出ます。多くの人たちに支えられながら生きていくことに間違いありません。そのことに感謝し、また、私自身が「誰かのために」が動き、仲間を支えていくことのできる大人として成長していきます。そして、「出来る、出来る、必ず出来る」の精神で、どんなことに対しても全力で取り組み、仲間と支え合って生きていくことを通して、「強く優しい人間」であるために努力し続けます。

学生スタッフ感想文

学校名　上越教育大学（４年）　　学生スタッフ氏名　後藤真実（ごまみ）

「私には素晴らしい力があります。果てしない可能性があります。」そう改めて子どもたちが気づかせてくれた 100km 徒歩の旅でした。

今年で 2 回目の参加となった 100km 徒歩の旅では、記録班として活動させていただきました。正直、今まで真剣に写真を撮ったことはなく、とても不安でした。しかし、事前研修では、プロの佐野さんに研修時の写真を一枚一枚評価していただいたり、技法を教えていただいたりして、自分の課題や改善点を知ることができました。また、本番中には多くの社会人スタッフの方々にアドバイスをいただいたり、助けていただいたりと、本当に感謝しています。ありがとうございました。

4 泊 5 日の中で、カメラを通して多くのドラマや表情を見ることができました。一生懸命歩調コールしながら歩く姿、アイスを食べる幸せそうな顔、仲間の遅れに背中を押す手、学生スタッフの苦悩する様子、ゴールで保護者と会えた時の泣き顔、100 徒歩を支える社会人スタッフの仕事の様子。去年のリーダーという役割では気付くことのできなかった表情でした。毎日毎日写真を撮っていると、日に日に子どもたちが成長していくことや自己開示していく様子が分かりました。初日のインタビューでは、声も小さく一言二言で終わっていた子どもたちも、最終日には自分の思いや願いをしっかりと発言していました。また、仲間への励ましや自分たちで時間管理するなど、行動も大きく変わっていくのが分かりました。その姿は、もっとみんなの思い出に残る写真、映像を撮りたい、という自分の意欲につながっていたと思います。

学生生活最後の夏に 100km 徒歩の旅に参加して、改めて貴重な体験ができたと思います。普段の大学での生活では、教員になりたいという同じ思いをもった学生としか関わっていませんでした。しかし、100 徒歩で他大学の学生と関わることを通して、教育に対する考え方や見方をさらに深めることができたと思います。子どもたちの成長を一緒に悩み、考えられる仲間ができたことに感謝しています。また、生きる力や体験活動の良さなどを実感することができました。来年から社会人として働く中で、今回の体験を生かしていきたいと強く思います。辛い時、苦しい時、100 徒歩の子どもたちの姿を思い出して、「できる、できる、必ずできる」の精神で頑張っていきたいと思います。

最後に、学生スタッフとして貴重な体験をさせていただけたのは、団長を始め、社会人スタッフの方々、大切なお子さんを預けてくださった保護者の方々、最後まで頑張った子どもたち、記録班として絶妙なコンビネーションで 5 日間を一緒に過ごしてくれたかーくんのおかげです。本当にありがとうございました。

■ 2014.8.12　ＯＲＡＤＯＫＯニュース

十日町で100キロ徒歩の旅、涙のゴール

エフエムとおかまち (2014年8月12日 18:59)

十日町市内の小学校4年生から6年生までが参加して、4泊5日で妻有地域を100キロ歩く「越後妻有100キロ徒歩の旅」が、7日から11日にかけて行われた。

6回目を迎える今年は13名が参加。7日にキナーレを出発し、津南町のひまわり広場やマウンテンパーク津南、十日町市のナカゴグリーンパークや笹山陸上競技場などをまわった。途中1人が体調不良で一時離れたが、その後復帰し13人全員でゴールした。

涙でゴールした西小学校6年生の村山ゆいさんは「3年間で300キロ完歩できてうれしかった。一緒にあるいた仲間は一生の友達です」と、涙をぬぐいながら話していた。

東小学校6年生の阿部京介君が「去年は熱中症で3日目に倒れたけど、今年はリベンジで上手くいったと思います」とうれしそうに話すと、母親の友美さんは「お姉ちゃんと京介が6年間で600キロ歩きました。今年が最後の年なので元気に帰って来てくれて良かった。今夜は息子の大好きな肉を食べさせてあげたいと思います」涙を流して京介君を迎えた。

子どもたちと一緒に100キロを歩いた、主催の越後つまり100キロ徒歩の旅実行委員会・澤野崇(さわの・たかし)団長は「子どもたちも頑張りましたが、学生のボランティアスタッフも頑張ってくれました。彼らがいなかったらゴールできなかったと思います」と学生ボランティアスタッフをねぎらった。

■ 2014.8.13　妻有新聞

三度笠で100キロ、自分の限界に挑戦

第6回越後つまり徒歩の旅

小学生13人が完歩、「ひと回り成長させる」

○…「出きる！　出きる！　必ず出きる！」を合言葉に地域を4泊5日かけ歩き、自分や仲間と向き合う「第6回越後つまり100キロ徒歩の旅」を7～11日に行い、今年は小学生13人が完歩の可能性に挑戦。キナーレを出発点に龍ケ窪、ひまわり広場、マウンテンパーク津南、ナカゴグリーンパークなど一日20キロ余を三度笠姿で走破。「イチ、ニ、イチニ」など互いに声を出し、励まし合った。初参加の中津小4年の中澤仁成君は「親に励まされ、面白そうと思い出ました。歩くのは辛いけど、いろんな友だちができたよ」と河岸段丘地を歩き、汗だくになっていた。

三度笠姿の児童が声を出しあい、苦しい表情で越後妻有を歩く（8日、津南町赤沢）

○…高温、雨にも負けず日中はひたすら歩く。夜は各地域の小学校で宿泊、食事は宅配に委託。テレビもない、ゲームもない、親元を離れた非日常の旅。大学生ボランティアがサポート役。今年は上越教育大や県立看護大、北陸学園などから12人が協力し、共に100キロ歩いた。十日町市本町出身で小学校教師をめざす居身綾香さん（19、上教大2）は「地元の子と触れ合える貴重な機会と考え申込みました。想像以上にきついですが、子どもたちと一緒に乗り越え、自分の成長に繋げたい」とお姉さん役を一緒懸命に務めた。

○…同旅は今年全国18カ所で行い、県内では十日町・津南と燕三条エリアの2カ所。十日町地域では6年前に十日町青年会議所主体で始まり、4年前から住民有志の実行委員会で継続。6年前に同会議所理事長時代に初企画、以後すべて子どもたちと同行し歩く澤野崇団長（43、四日町）は「限界まで体力を使った時、仲間の大切さ、自分を支えてくれる人がいると、子どもたちが知るのが大切。今までの自分の殻を破り、ひと回り成長する旅なんです」と話す。この旅、「真夏のチャレンジ」として今後も継続する。（石沢修一）

写真右＝夜は校舎に宿泊。疲れをいやす（7日、津南小）
写真下＝車座となり、一緒に歌の練習をし一体感を高めた（7日）

■ 2014.8.20　十日町タイムス

三度笠かぶって涙の完歩

親元離れ越後つまり徒歩の旅

○…自分や仲間と向き合う4泊5日の旅――「越後つまり100㌔徒歩の旅」が7日～11日、都市内の小学校に宿泊しながら行われた。今年は小学生13人が参加。1人が体調を崩し、全員完歩とはいかなかったが、それぞれが貴重な体験をし大きく成長した。

家族との再会に涙を流す子ども達

○…主催は同実行委員会（澤野崇会長）。現代の子ども達に不足している「生きる力」を育てようと、十日町JC主催から数えると今年で6回目となる。上教大や県立看護大、北陸学園などの学生12人もスタッフとして参加した。

○…子ども達は、ひまわり畑、マウンテンパーク津南、ナカゴグリーンパークなどを歩き、地域の魅力を再発見しながら、仲間と共に5日間を過ごした。途中、豪雨にも見舞われたが、三度笠をかぶり、声を出しあいながら一生懸命歩く姿は、地域住民にも元気を与えた。

○…ゴール地点のキナーレでは、みんなで手を繋ぎ最後の一歩を踏んだ。5日間の苦しい徒歩の旅の完歩、家族との再会に子ども達は涙を流し抱き合っていた。

○…今年で3回目という村山ゆいさん（西小6年）は「今回が一番辛くて大変だった。家族と離れて少しさびしかったけど、友達と一緒に頑張れた」と旅を振り返った。

○…澤野会長は「学生スタッフのやる気や工夫の仕方が過去にないくらい良く、子ども達も本気になってくれた」と笑顔をみせた。また来年にむけ「もっと参加者が増えてほしい。リピート率は高いが、初めての参加が少ない」と話し、来年に期待を込めた。

■ 2014.9.4　十日町新聞

13人の小学生が100キロ踏破

猛暑の中を4泊5日で生きる力を醸成

「越後つまり100キロ」が徒歩の旅」が先月7日から11日の4泊5日で、十日町市と津南町を舞台に展開され、猛暑の中を地域の小学生13人が、12人のサポートする大学生とともに100キロ踏破を目指した。

これは子ども達の生きる力の醸成、地域の魅力の発見などを目的に6年前に十日町青年会議所が始めたもので、3年前からは同会議所メンバーが中心となって実行委員会を"立ち上げて継続している。

11日午後2時に、キナーレ正面に100キロの旅に参加した児童の家族が待ち受ける中、大きな掛け声とともにゴールラインに到着し、サポートの大学生とともに「最後の一歩」の声とともにゴールした。

元気よくゴールした子ども達を出迎えた家族らは、「5日間、暑い中をよく頑張ったね」と声掛けして抱きしめていた。

「最後の一歩」の掛け声で喜びのゴール

■ 2014.9.4　新潟日報

成長刻む歩み100キロ

十日町

市内と津南町で8月に行われた「越後つまり100キロ徒歩の旅」に参加した児童の報告会が31日、学校町1の市中央公民館で開かれた＝写真＝。

徒歩の旅は子どもたちの生きる力を育てようと、十日町青年会議所の会員やOBでつくる実行委員会が主催し、ことしで6回目。小学4～6年生が5日間かけて100キロを歩き、12人がゴールを果たした。

東小6年の村山ゆいさん(11)は「雨の日もあって大変だったけれど、諦めずに声を出して歩いた」と話した。西小6年の阿部京介君(11)は「去年は熱中症でリタイアし、ことしはあらためて歩ききる大変さが分かった。来年がある人は頑張ってほしい」とエールを送った。

（順不同・敬称略）
■協力■
公益社団法人　十日町青年会議所

■後援■
十日町市　　津南町
十日町市教育委員会　　津南町教育委員会
越後妻有交流館キナーレ　　エフエムとおかまち　　十日町新聞社
十日町タイムス社　　妻有新聞社　　全国１００ｋｍ徒歩の旅

■賛助頂いた皆様■
株式会社魚沼　　株式会社美佐伝　　株式会社大村建設
株式会社共立舗装　　株式会社三高土木　　株式会社恒樹園新潟
株式会社富剛建設　　株式会社中山建工　　株式会社二瓶砂利
株式会社福島建設　　株式会社吉田商会　　有限会社加久田工業
有限会社きさらぎ　　有限会社協和電業　　有限会社佐野写真館
有限会社大米銘木店　　有限会社服部総業　　有限会社花せん
有限会社丸池工務店　　有限会社マルミ電化サービス　　勝坊
有限会社ヤナギ商会　　小川自動車株式会社　　小野塚事務所
サトウ接骨院　　スリーエスシステム　　千原株式会社・和の風
十日町砂利株式会社　　十日町電設工業株式会社　　長秀鉄工
葉葺司法書士事務所　　林家旅館　　丸松工具株式会社
有限会社ミヤコウドリーム　　養老の瀧　　水落会計事務所
高橋昇男税理士事務所

桑原　善雄　　小山　大志　　関　雅夫　　長谷川　吉徳
藤巻　優樹　　丸山　浩　　吉澤　政敏

■お世話になった学校・施設・会社・団体■
津南小学校　　中津小学校　　芦ケ崎小学校
田沢小学校　　上野小学校　　吉田小学校

新潟県厚生農業協同組合連合会中条病院　　十日町情報館　　視聴覚ライブラリー
諏訪神社　　十日町地域消防本部　　財団法人十日町地域地場産業振興センター
越後妻有交流館キナーレ　　ナカゴグリーンパーク　　龍ケ窪　　神宮寺
マウンテンパーク津南　　株式会社上島　　株式会社新潟ソフトストラクチャ
株式会社富剛建設　　津南町観光協会　　林屋旅館　　株式会社ムラオ
株式会社村山興業　　雪国　　ミオン中里　　有限会社大地
タナカクマキチ　　フレッシュランチ・ハーベスト　　セブンイレブン福田屋
セブンイレブン十日町西店　　ＮＰＯ法人ネージュスポーツクラブ

■助成■
子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）

越後つまり100km徒歩の旅

私には素晴らしい力があります

越後つまり１００ｋｍ徒歩の旅実行委員会

〒９４９－８５２４　新潟県十日町市馬場丙１５０５　(株)上島内
ＴＥＬ：０２５－７５８－２０３３　　ＦＡＸ：０２５－７５８－２５０５
ＵＲＬ：http://echi100km.main.jp/
E-mail：info@echi100km.main.jp

National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」